

### どの職業が就職しやすい？

世の中には色々な職業があり、ハローワークで取り扱う職業も多種多様です。

職業の種類別に、仕事の数と、仕事を求めている人の数を見ると、人手が足りない職業、みんなが就きたい職業というものが見えてきます。

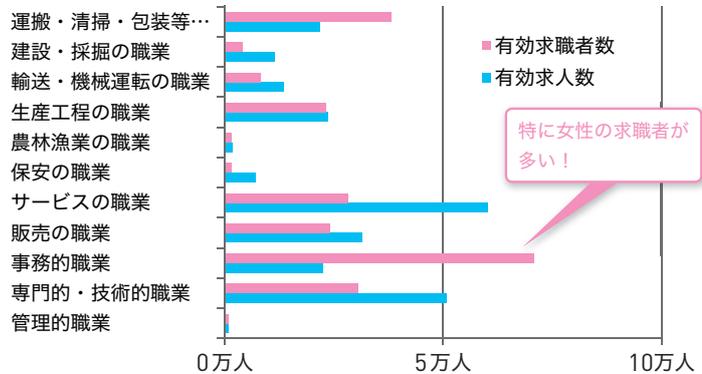
みんなが就きたい職業は、いわゆる事務職（事務的職業）のようです。しかし、仕事の数はみんなが就けるだけの量はないようです。

人手不足はというと、いわゆるサービス系の職業（サービスの職業）と、専門職（専門的・技術的職業）でしょうか。

このように職業によって仕事の数と仕事を求めている人の数が、うまくかみ合っていない状況を、職種の「**ミスマッチ**」といいます。ミスマッチには、地元で働きたいけど仕事がないといった地域間ミスマッチや正社員で働きたいけど契約社員や派遣しかないといった働き方のミスマッチなどの種類があります。

このミスマッチをいかにして減らすかということを考えるのも職業安定局の仕事のひとつです。

### 職種のミスマッチが分かる図（平成26年度平均）



### 数字を見るとき的心得

ここで、ちょっと数字を見るときに注意しなければならない例をご紹介します！

都道府県別の有効求人倍率を紹介しましたが、どのようなデータを元に集計しているのか考えてみよう。

一般的には、ある県に所在している企業が人を雇いたい場合、その県にあるハローワークに求人を出します。一方、その県に住んでいる仕事を求めている人が、その県にあるハローワークに行きます。ハローワークでは、これらの情報を収集して、有効求人倍率を集計します。

しかし、次のような場合はどうでしょう。本社が東京都にあり、実際の働く場所が大阪府にある場合です。本社で採用管理をしている会社では、東京のハローワークに求人を出しますが、この場合、求人データは就業地である大阪府で集計されず、東京都でカウントされることになります。つまり、求人を受け取った県と就業する県が異なる場合は考慮されていないのです。このような求人は全体の15.6%（平成26年度）ほどあるんですよ。

このように、統計の数字を分析する場合、数字の裏に隠れている状況を見極める必要があります。こういう背景を常に考えながら、分析をしていくことが数理職に求められています。



これって問題では！  
と思われるかもしれませんが、大丈夫です。ハローワークのシステムは全国オンラインで結ばれていますので、〇〇県にいる求職者はこのような求人もしっかりと見ることができます。



〈雇用政策課内の様子〉